

京都市里親支援センター運営事業者募集に係る
プレゼンテーション 摘録

日時：令和8年7月16日（木）午後3時30分～午後4時15分

場所：京都市役所 分庁舎4階第3会議室

○：子育て支援担当部長、子ども家庭支援課長

児童相談所長、社会的養育推進担当課長

●：提案者

質疑応答

- 児童相談所（児相）との連携について記載があるが、具体的な方法は。また、週1回対面で協議の場を設けるとあるが、何をテーマとした場を想定しているか。
- 協議の場というより、情報共有の場として綿密な共有が重要と考えているため、週1回とした。里親推進の進捗状況や、ケースの現状、里親の動向等を共有し担うべき業務を整理できると考える。
これまで、共有されている情報の少なさからマッチングに課題が出てきたようなケースもあったため、共有を重視している。
- 先ほど、マッチングに課題のあったケースや情報の少なさという話があったが、マッチングの課題を解消するための情報収集はどのように行う予定か。
- 登録研修の際に、「なぜ里親になりたいのか」を見つめ直す自己理解のプロセスを設けている。そのために登録研修希望者へ自身の生い立ちを振り返る機会作り、自身が自分に起こった様々な出来事やその時の感情、そして人との関係性について理解することから始める。
それをセンターとして把握することで、里親のアセスメントにつなげたい。
- 職員の確保計画について、中高生の支援経験のある方や他都市での経験者の雇用についてどう考えているか。
- 児童養護施設での中高生への支援経験があり、里親支援専門相談員として勤務していた元施設職員を雇用予定である。誰でも良いわけではないので、他都市での里親支援に携わってきた経験者や児童養護施設の勤務経験のある方等を採用できればと考えている。
- なぜ中高生の支援経験や自立支援経験者の存在が必要と考えているのか。こ

ういった存在の職員をいかに活かしていくのか。

- 「出生後すぐから養育していくケースとは異なる、中途養育の大変さ」を実感している職員は重要である。里親が養育に困っているとき、その困り感に共感でき、関係性構築のアドバイスができる存在として、経験者は必要である。
- 収支見通しにおいて人件費が年々上昇しているが、後進の人材育成も必要だと思う。経験豊富な方の雇用も必要ではあるが、施設の継続性を考えると若い職員も雇用し、育成していくという視点も必要ではないか。また、人件費のバランスも考慮すべきではないか。
- 資格要件を満たす人材を確保しようとする際、経験年数は必然的に高くなる。それだけ難しい専門職であると言える。しかし、人件費のバランスは考慮すべきであると考えため、今後、対策を考えていく。後進の人材育成の視点は非常に重要と考えているため、今後の雇用についても人件費のバランスを考慮しつつしっかりと検討していく。
- リクルートについて、どのような里親が求められると考えているか。
- 多様な里親が必要と考える。社会的養護の子どもたちにとって様々なニーズがあるため。「子育てがしたい」人、「子育て経験を社会に活かしたい」人、「子育て経験はないが、何か役に立ちたい」人など様々。長期、短期などの多様さもあり、その目的に即したアプローチをしていきたい。
- 自身の子育てを終えて夫婦二人で暮らそうと考える方が多い中、子育て経験を社会に生かしたいと考えている層はどこにいるのか。
- 民生委員や町内会等、既存のネットワークを通じてリクルートを行ってきたい。SNS等の活用によって多くの人の目に留まることが重要と考えているが、これから情報収集を行っていきたい。
- 多様な里親とは、具体的にどのような多様性を指すのか。
- 縁組を想定して「家族として受け入れたい」と考える方・実親の存在を受け入れた上で、社会的養育が必要な児童のために自分の家庭を子どもの居場所として提供しようと思える方、共に暮らすだけでなく、週末等の関わりを通して、大人として色々な生き方があることを知ってもらいたいと思う方など様々だと思う。居場所を提供したい方の場合、短期・長期どちらの委託も考えられ

	るし、シングルの方の中には自分の生き立ちを含めて里親を希望される方もいる。子どものニーズに即して対応できるためにも、多様な里親さんが必要であるとする。
○	「すべての子どもに家庭的養育環境を」という理念と、丁寧なマッチング支援というのは矛盾する場合もあると思う。それを実現するには、里親のアセスメントが必須だが、具体的な手法は。
●	前述のマッチング課題のところと重なるが、里親登録前の研修時に、「なぜ里親になりたいのか」を見つめ直す自己理解のプロセスを重視する。そのため登録研修希望者へ自身の生き立ちを振り返る機会を作り、里親自身が自分に起こった様々な出来事やその時の感情、そして人との関係性について理解することから始める。さらに、里親の考え方等をしっかり把握していく。
○	現在未委託里親が約 100 世帯と半数近くいるが、これについてどうとらえているのか。
●	委託を考えられる方なのか、ただ登録だけをしている状態なのかのアセスメントが必要である。
○	約 100 世帯あるがアセスメントは可能か。
●	数は多いが、未委託里親を活用するためには必要なことであり、やるしかないと思っている。児相と協力してやっていきたい。よろしくお願いします。
事務局	時間になりましたのでプレゼンテーションを終了します。結果については後日連絡させていただきます。